高校阿倍野新聞

発行所
大阪市阿倍野区阪南町一丁目30番34号
大阪府立阿倍野高校
新聞部
編集責任者　大森伸樹
発行責任者　木本敬巳

新入生への言葉
人生の基礎づくりを

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。高校生活第一歩をふみ出すみなさんに、平田泰世校長先生より激励のお言葉を頂きました。

四月八日。阿倍野高校入学式。三十二回生入学。人の一生のうちで、個人差はいくらかあるにせよ、高等学校の時代は、きわめてたいせつで重大な時代であると信じている。身長や体重など身体の発達は、この時代が最高調であるし、しかも、高校時代が終われば、それらの発達はほとんどとまってしまう。脳細胞の活動もこの時代がもっともさかんである。知識欲の活発さや記憶力の旺盛さは生涯を通じ、この時代にまさる時代はあるまい。過ぎた数十年を思い、私はそう確信している。ある人が、この時代における知識の吸収状態を、「まるでスポンジのようだ。」といったのはまことに妙を得たたとえであると、いつも感心している。高等学校時代とは、そんな時代なのである。

再び来ることのないその重大な高校時代に、君たちは、いま、いるのである。しかも、わずか三年間にすぎないけれども、この三年間の生活が君の一生を決定し支配する、と思ってほしい。そしてそのことを、在学中瞬時たりとも忘れないでいてほしい。古来、「元服」とか、「初冠（ういかむり）」とか、「志学」とかというのは、君たちのころの年齢を対象としているのである。

高等学校時代とは、おとなの世界を眼の前にして、その世界に入るための準備期間でもあるのだ。いつまでも、だらだらと合格の喜びばかりにひたっていないで、一刻も早く現実の生活にもどり、これから何をなすべきかを考えよう。「人生の基礎づくりは、高校三年間に在り。」これを座右にかかげ、毎日を力いっぱい励んでほしい。

〝何か〟を見つけよう

南舎二階
新聞部室へ

各担任の言葉

今日、この澄みきった青空の下で、阿倍高生になる皆さん。門をくぐった瞬間何を感じましたか。「よし頑張ってやろう。」「ああ、いやだなぁ。」「しんど。」などと思っていることでしょうね。中には何も感じていない人もいることでしょうでも、今日からは高校生。この伝統ある阿倍野高校の生徒になるのです。何か目標を決め、この三年間精一杯頑張って、有意義な高校生活を送って下さい。

さて、今一番興味のあるものは、何といっても担任の先生のことではないでしょうか。そこで、我々新聞部は、新一年生の担任の先生方に、①出身大学　②趣味　③好きな言葉　④好きな本　⑤新一年生に期待すること。以上の四つの質問をして、答えて頂きました。

一組担任　小西先生
①京都大学
②登山・音楽鑑賞
③煙霞淡泊
④CHARLES DICKENS著。「GREAT EXPECTATIONS」
⑤猛勉強してほしい。

二組担任　東郷先生
①広島大学・理学部
②登山・音楽鑑賞
③好きな言葉の代わりに花ライラック。
④「赤毛のアン」
⑤規律を守って、その中で楽しく過してほしい。また、本当の友達をみつけるように、ということはその人の本当の友達となるように努力してほしい

三組担任　小山先生
①大阪教育大学
②山歩き・俳句をつくる
③優しさ
④「大空」
⑤自分の力を精一杯発揮してほしい。

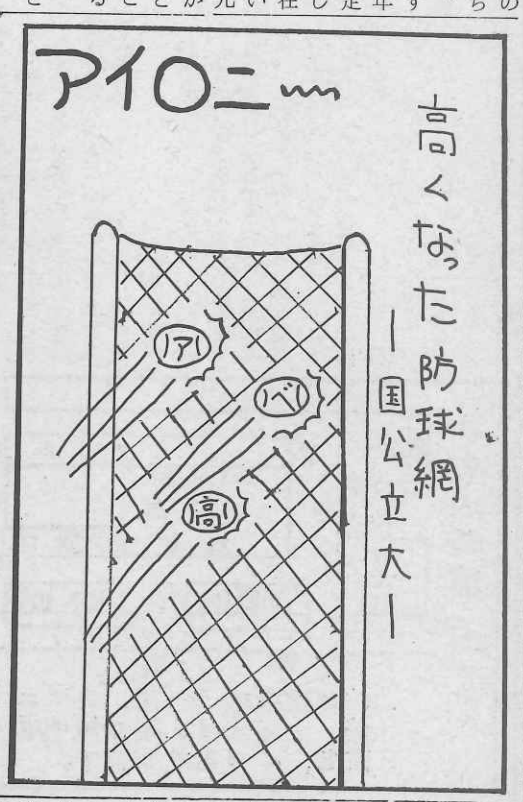
四組担任　一谷先生
①広島大学
②囲碁
鉄道模型
野球（阪神タイガース）

五組担任　広末先生
③初心忘れず
④「大空の侍」
⑤後で後悔しないように、生活してほしい。

六組担任　木下先生
①大阪教育大学
②スキー
③誠実
④北杜夫著のもの
⑤よく勉強する。肉体的苦痛を味わって、自分の精神力を強くしてほしい。

七組担任　宇佐美先生
①東京理科大学
②ゴルフ
③ピンとこない。
④頭の体操になるもの
⑤妥協という「美しいことば」に安易に馴染まないで欲しい。

八組担任　富田先生
①京都芸術大学
②音楽（ロック）鑑賞
③言葉はむなしいもの
④梅原猛著「水底の歌」
⑤けじめ（遊ぶときは徹底的に、勉学も徹底的に）のついた生活を。人間的に大きくなってほしい。



部説
―H・R―
各担任の協力を

時間割りの一つに〝H・R〟という時間がある。〝H・R〟とは、一体何か？　クラス全員が一緒になって遊んだ時間数は非常に少なく、三時間を超えたクラスは殆どない。いつもは、部会や委員会などから連絡があり、余った時間は皆ばらばらになり食堂などへ走る者もいる。

執行部・各部会は盛んに、この〝H・R〟の活発化を呼びかけている。しかし、その成果はあまりみられない。

〝H・R〟の活発化というのは毎時間、クラス全員が一体となって、何かをやっている状態をいうのだ。では一体何をやるか？それは、君たちで決定することだ。

自分たちで決定しない限り自治会は低迷を続けると言っても過言ではないと思う。

しかし、新入生にとってある方向性を示してくれるのは、ほかならぬ担任の先生方である。まわりを見ても知らない顔ばかり、高校のことはあまりわからない、一年生にとってこれほど不安なことはない。極端に言えば、新一年生の方向を決定するのは担任の先生方だといってもいいくらいだ。高校生にもなれば、創造性や自主性も高まるが、はずみ車がなければ、動き出さないのだ。先生方の〝H・R〟に対する考えは、いろいろあると思うが、動き出せば必ずある目標に向かって進んで行くはずだ。そして目標に到達するかしないかは、クラスの全員にかかっている。途中で座折するかもしれないが、是非とも先生方にお願いしたいのは〝H・R〟の活発化にもう少し協力していただきたい。自分たちの力で〝H・R〟を運営できるまでに担任、執行部と共に全力を入れてみようではないか。各クラスが活発にならないことには、自治会組織全体が低迷を続けてしまうといっても過言ではないだろう。

新入生諸君、入学したばかりで、この阿倍高の〝H・R〟の状態はわかりにくいと思う。しかしこのことだけは頭の中にたたき込んでおいてもらいたい。〝H・R〟は活動する時間であって、沈黙の時間であっては絶対にいけないのだ。

針の穴

人生最初の難関？をのり越えた心地よい気分に浸っていることと思う。また、意外にあっさりしている人もいると思うが、そんな君たちにこの話をきいてもらいたい▼我が阿倍高は、現在、昔と比べてかなりレベルダウンしている▼過去、この紙面上にも、京大、阪大などの出題傾向や大学別合格などを堂々と載せてきたが、今やそれらを載せることにさえ、新聞部としては、一まつの抵抗を感じるようになってきた▼自分も入学当時、大学受験に対して、鷹をくくっていたが、この阿倍高で一年間過ごしそれが実に甘かったことを痛切に感じられるようになってきた▼だから、今の君達で気がゆるんでいる人は早く、ひきしめてもらいたい。この高校に入れば、この大学へ行けるというのではないのだから▼冒頭からおかたくなってしまったが高校生活は勉強がすべてではない。クラブ、友情、恋愛など人生で一番思い出に残るのは、高校時代だと言われる。勉強以外にも大いにエンジョイしてもらいたい。それだけに、早く時間が過ぎてしまうのだ▼何か一つ大きな目的を持ってそれをやり遂げる、これが若さ。これが青春ではないだろうか▼自転車で、日本一周でもするとか、そんなに大きなことでなくとも、クラブに青春をかけてもいいまた、学問に心を燃やすのも、学生時代ならではのものだろう。ゆえに勉強することによって、学生時代が灰色だとは一概には言えないと思う。つまり、自分が納得しさえすればいいのだ▼高校生活の充実、今すぐにでも考えておくべきことではないかと思う。

自主的な行動を

阿倍高の内面・外面

ここ二・三年、自治会選挙を補充選挙に頼るなど自治会の低迷が続いている。そこで、自治会のあり方を知ってもらうため、会長、各部会の代表者に投稿を依頼した。

自治会会長
峯　正一郎

新入生の皆さん、入学おめでとう。これから皆さんは阿倍高生として高校生活を送るわけですが、ここで簡単に阿倍高自治会について説明しましょう。まず、会員についてですが、皆さんの一人一人が会費納入の義務をはたせば、自治会々員となります。そして一人一人に自治会に関する参政権とクラブ活動に参加する権利が与えられます。つまり会員一人一人に自治会に対する責任があります。ですから、自治会活動は他人に任せきらずに自分も進んで参加しなければなりません。このことを忘れずに以下の組織について理解して下さい。まず、皆さんの最も身近にあるH・Rから説明します。H・Rは自治会活動の基本となる最も重要なものです。各H・Rには会長・副会長（各一名）、議員（男女一名）、それに会計・文化・運動・集会・風紀の各委員（男女一名）が必要です。まず、会長と副会長の仕事はH・Rの統制と他のH・R会長との話し合いなどです。議員は、最高決議機関である議会に出席してクラスからの意見などを執行部に伝えたり、執行部から出された問題をH・Rに持ち帰って討議しそれを再び議会に持って行きそれらについて決議し、その結果をH・Rに報告します。また、議員の大半が部会というものに参加します。その他の各委員は委員会に参加し、その一部の者は部会に参加します。部会というのは執行部に依頼された仕事をしたり、執行部の基本方針、部会独自の活動をしています。部会の活動のH・Rへの浸透には議会や各委員会が使われています。これらが自治会組織の概様です。これらのことをよく理解して自治会活動を活発にするように努力して下さい。

運動部会

我が運動部会は議員と運動委員及び執行委員一名で構成されている。仕事内容は主なものとして二つ掲げられ一つは体育大会・クラスマッチの企画運営で、他の一つは運動クラブの統轄をはじめとする運動に関する諸問題の管理である。

ところで高校では中学の時と違い体育大会やクラスマッチの企画運営は我々生徒の手で行うのである。しかしそういう意識を持ってこれらの行事に臨んでいる者が少ないのが現状である。そこで我々は次の事を言いたい。まず、体育大会やクラスマッチが自分たちの手で造り上げて行くものであるという自覚を持ってほしい。その上でこれらの行事について真剣に考え討議を重ね、これらに臨んでもらいたいのである。

最後に我々は今後君達が新味な発想で、自主的な行動をとる持ち前の力を十分に発揮してもらいたい。

文化部会

生徒手帳の自治会会則を見てもらいますと、文化部会は『文化的諸問題の善導にあたる』ということが書かれてあります。この抽象的な文章を具体的にいいますと、文化祭に関して、H・R、クラブの日程の調整用具備品の貸借をしたり、また、全校生徒から出てくる意見をまとめ上げていくことなどで、その都度文化部会は、全校生徒に相談をもちかけたりします。そして基本的には執行部ならびに全部会、全校生徒の方針H・R、クラブの活発化、つまり自治会活動の活発化にそって行事（文化祭・映画会等）を進めて行きたいと思っています。

ここで、昨年度の文化部会の活動を本年度活動予定におり込んで述べたいと思います。

まず、六月の初めに、文化部会が行事などの活動を行っていく上での基本方針を打ち出し、全校生徒で検討してもらい、承認してもらいました。（本年度は四月になる予定、そしてさらに基本方針を理解してもらえるような映画を上映する予定）その後、文化祭の計画にはいって、十月の初めに文化祭があり、一月の終わり頃に映画会がありました。（本年度はH・Rで各個人が自分自身の意見を発表でき、H・R全体の話し合いができるような何かをやりたいと思っています。）

しかし、このような行事を行うためには自治会会員全員の積極的な意見や協力がなくてはなりません。だから一年生のみなさんの新鮮な意見と何事にも真剣に取り組んでいけるまじめさを期待しています。

集会部会

今までの集会委員の仕事としては、文化祭・体育祭の時のフォークダンス指導と文化祭のアーチ作成。後期は全くナシ、という具合で不活発でした。それに前期の仕事にしても集会委員会が企画したものなど一つもありません。

これでは、集会委員会の影がうすれていくばかりです。

そこで何も活動していない後期に、集会委員会が企画したものをやろうではないかということになり、今までに自治会や文化委員会を通じて言われてきたH・Rの活発化を促進させるものを検討中です。

昨年、二・三年がこのことを考慮した上でどんな行事を望んでいるかをアンケートによって聞かしてもらったのは、みんなのためによりよい行事を企画するためのものなのです。

前期のような他の委員会との連係プレーも大切ですが集会委員会が中心となって活動するものを生み出したいと思っています。

今後の御協力をお願いします。

風紀部会

我が風紀部会では、第一に制服問題・自転車通学の問題について、第二にその他の風紀面に関する多くの諸問題について討論しています。前者の制服問題については単に制服制度廃止というのではなく、現在我々が制服を着用しているのは何故か、着用している制服の問題点をどのように解決していくか、また自転車通学の問題については、現在禁止されている自転車通学に対する正しい理解と当然我々がとるべき態度等について話し合っていますが、まだ歩き始めたばかりの状態で、成果は上がっていません。また他校と連絡をとったりしてこれらの改善に努め、部会内だけの話し合いではなく、全校生徒の直接の意見も聞いて押し進めていきたいと思っています。みなさんも積極的に協力して下さい。なぜなら規則は作られるものではなく、作るものなのです。

―校内散策―

各教室の確認を

ようこそ阿倍野高校へ！我が新聞部では、新入生のために校内案内を計画しました。本文を参考にして、校内を良く知って下さい。

◇

では、まず日時計(A)の方へ。この日時計は、第十四回生から寄贈されたもので東経一三三度三一分、北緯三四度三八分に位置します。

次は、北・南舎へ。正面玄関を入って右側に事務室(B)があり、その向いの(C)は技術員室です。水道を左に曲がると職員室(D)があり、その向いは中庭になっています。少し行った所の突き当りを右に曲がると、左側に旧柔道場(E)があります（新柔道場は体育館一階にある）。ここで、一・二年男子生徒は、柔道の指導を受けます。旧柔道場の隣は給品部です。角を右に曲がって(F)まで行くと、左側に便所、正面に生物室(G)、さらに(F)を右に折れて(H)まで行くと、左側に君達が願書を提出した会議室(I)、その隣(J)が校長室、右側に保健室(K)があります。では、校長室の横の階段を昇って二階へ。

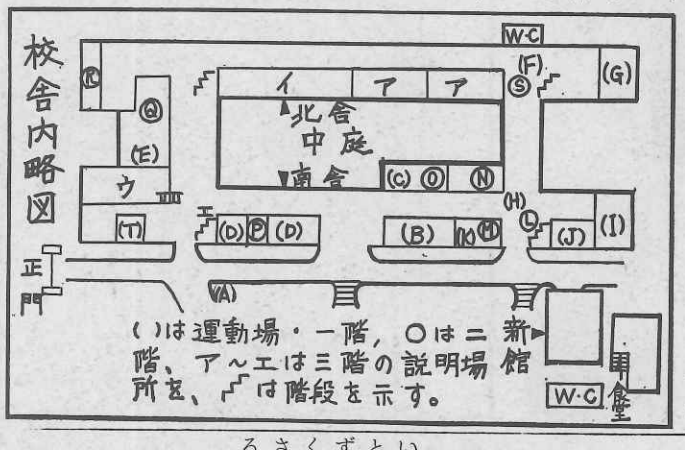
階段を昇った所(L)において、左側の(K)の真上にあたる所に自治会室(M)があります。ここでは、自治会々長の峯君を中心とし、現在七名で構成されている執行部が、議会や部会の出席、クラブ問題など、いろいろな事柄に取り組んでいます。自治会室の向いには、地学準備室(N)、その隣が、この「高校阿倍野新聞」を発行している我が新聞部の部室(O)があります。我が部では現在男女問わず部員を募っていますので、入部を希望している人は、是非ここまで来て下さい。

中庭を右側に廊下を少し行くと、左側に社会科準備室(P)があります。突き当りを右に曲がると、左側に旧講堂(Q)があります。ここでは演劇・軽音クラブのコンサート・文化部会主催の映画会などが行われます。さらに真っすぐ行くと角がありますが、これを左に行くと、突き当りに国語科と数学科の準備室(R)があります。この角を右に曲がって(S)へ行くと、左側に便所があります。便所の向いの階段を昇って三階へ。

三階には便所がありません。あしからず。(T)には、新館とは別に、一年生の教室が二つあります。これらの教室を少し行った所が家庭科室(U)です。角を左に曲がり、真っすぐ行くと九段の階段があり、そこを昇った所に図書館(V)があります。本が多いので、勉強するのには、最適でしょう

(X)の所の階段を一階まで降り、旧柔道場の横の細い通路を入って行くと、英語科準備室(T)があります。

そろそろみんなおなかがへってきたのでは？それでは食堂へ案内しましょう。正面玄関から出ると、テニスコートの背後に大きな建物が見えますが、これは体育館です。新館（新しくはないが）を抜けた所にある白い建物は便所。用を足したい人はここでドーゾ。便所から出て、右側にある階段を下ると、食堂があります。案内はここで終りにしますので、ゆっくり休んで下さい。なお、食堂の自慢料理は、カツ定食・コロッケ定食（共に一八〇円）・ハンバーグ定食（二〇〇円）・上定食（二五〇円）です



編集後記

新聞を読んだ感想はどうでしたか。意見・感想などを遠慮なく新聞部々室まで持って来てください。また勧誘に行くと思いますのでその時はよろしく。

さて、これから大々的に新聞部のPRをします。

新聞部では部員を募集しています。

・新聞を通してこの阿倍校の歴史に名を刻みたい人。
・新聞に自分が撮った写真を載せたい人。
・胸の中に何かつまったもののある人。
・何かを書かずにいられない人。
・文章力をつけたい人。
・「部室がある」ということに魅力を感じる人
・何かに燃えたい人。
・カッコよく取材をしたい人。
・研修旅行に行きたい人
・他校へ取材に行きたい人。
・新聞を通して阿倍高の歴史を知りたい人。
・その他、どんな特技でもいいから持ち合わせている人。

（例えば耳でたばこを吸えるとか）

要するに、どんな人でもいいのです。何かを知ろうとしている人、何をか言わずにいられない人、とにかく新聞部々室まで来てください。きっと何かが見つかるはずです。

☆　☆　☆　☆　☆

校内解剖

「入学おめでとう」という言葉ももう何回耳にしたかな。

まだまだおめでたい気持ちが続くと思うがもう今日から阿倍高での高校生活の始まり、ここは、ぐぐっとはやる気持ちをおさえて最初のスタートでつまづかないよう心をひきしめよう。

とは言っても、入学ほやほやの君たちに、いきなり難しいことを並べたてても消化不良の患者をふやすばかり。

それでは、順序をふまえて、身近な話題から、阿倍高というものを解剖していこう。

なんといっても、身近といえば、食堂について。

我が校の食堂は、利用者数から考えてもけっして充分ではない広さである。それに加えて、弁当持ちの人が食堂へ付き合いで行き、昼休みのピークなど、弁当組が席をとって、本来食堂で食べようとする人が食器を持ってうろうろするという珍現象がみられる。

また、買う順番を待っている間に、割り込む者がいるので、正直者がばかをみるということが平気でまかりとおっている状態。

そこで君たちは、食堂が個人のものではないということをしっかり頭に入れてほしい。

それでは次に制服問題へと話を進めよう。

制服問題といえば、昨年度発足したある組織のことを語らずにはいられない。

その組織とは、風紀部会内の制服検討部門（詳しくは『各部会の言葉・風紀部会』参照）で、生徒の間から自主的に生まれてきた。

現在もまだ活動中であるが、その成果はわからない。

このことから、誰でもが本当にやる気があるのなら自分たちの手で目的を達成しうる可能性があるといえよう。

君たちも、制服を着用して何らかの考えを持っているだろう。また、制服に限らず、阿倍高に対していろいろな疑問や考えを持っていくようになると思う。そのときにそういう考えをうちに秘めず発展させていってほしい。幸い我が校にはそういう欲求を発散させる場がいくらでもある。

それがH・Rであり、各部会であり、自治会執行部であるのだ。（それぞれの役割は、既に他の欄や生徒手帳等で述べてあるのでここでは省くことにする。）

それでは、自治会の役員選挙のことについて少々書くことにする。

選挙は年二回行なわれ、近年ずっと立候補者が少なく、補充選挙を行なってやっと定員ぎりぎり執行部成立という状態。

なぜこのような現象がおこるのかといえば、執行部の人数が少ないので各自の負担が多くなる。そしてクラブなどとの両立はほぼ無理となり、立候補したくともできないという悪循環によるのだ。

この悪循環をどこかで断ち切るとすれば、とにかく自分の考えを何らかの形で発展させていきたい人は、恥ずかしがらずに立候補することだ。

そういう人が多くなると現状打破への糸口がみつかるかもしれない。

話が少々ややこしくなってしまったが、決して先輩の悪い習慣をまねてはいけない、また常に自分を反省して生きてほしい。そうすることが、君たちの前進となるのだから。

◇　◇　◇　◇　◇